

# 2008年度 事業報告書

(付:2009年度事業計画・予算及び役員・委員名簿)

2009年8月

ANNUAL REPORT  
2008  
AUGUST 2009



財団法人ロータリー米山記念奨学会  
ロータリー日本国内全地区合同プロジェクト

財団法人ロータリー米山記念奨学会

Rotary Yoneyama Memorial Foundation, Inc.

# CONTENTS

## はじめに

2008年度を振り返って	理事長 板橋 敏雄	
設立趣意書	.....	2
目的と事業	.....	3

## 事業・会計報告

2008年度 事業報告	.....	4
2008年度 会計報告	.....	27
より身近な奨学事業の実現にむけて ～課題の整理～	.....	30

## 事業計画・予算

2009年度 事業計画	.....	32
2009年度 予算	.....	45
2009年度 主要年間計画表	.....	46

## 役員・委員

理事・監事・評議員	.....	48
選考委員・専門委員	.....	52
米山奨学委員長・米山委員	.....	53

## 組織図・職員

組織図・職員	.....	54
--------	-------	----



## 2008年度を振り返って

財団法人ロータリー米山記念奨学会  
理事長 板橋 敏雄

日本全ロータリアンの大きな誇りであり、世界のロータリーも高く評価をしている米山記念奨学事業を担う財団法人の理事長を拝命して、2年が経過いたしました。私自身、ロータリアンとしての生涯の中で、最もやりがいのある奉仕をさせて頂き、その上全国のロータリアンの皆様から多大なご支援を戴いて居りますことを先ずもって心より感謝申し上げます。

昨年9月のリーマンショック以来、日本経済は想像以上に大きな悪影響を受けてまいりました。最近になって、多少の明るさが話題になりますが、まだまだ全体的には苦難の中にあります。私は念ずるような気持ちで、皆様からのご寄付を見守らせて頂きました。その結果、本年度決算での普通寄付金は前年より減少しましたものの、名古屋名東RC坂本精志会員からの1億円の特別寄付もあって、目標額14億5千万円を3%越える事が出来ました。坂本様を始め全国のロータリアンの皆様に衷心より感謝申し上げます。

本年度は大変に嬉しい事がございました。中国学友会が去る3月28日に北京にて90名近い学友が参加して正式に誕生したことです。日本からの参加者は少数でしたが4時間の発会式は全て日本語で進められました。初代会長に就任された<sup>ジジュン</sup>姫軍さんは、「日本と日本人を一番良く知っているのは我々を置いて他に居ない。今後若い人達への教育を含め、日本の事を伝えて日本と中国の親善に尽くすのが我々の恩返しのだ。」と強調されました。私は感動に震えて感謝のご挨拶を申し上げます。これこそ米山梅吉翁が意図された、「人を育てる事によってアジアから世界の平和を実現する」金字塔に一步一步近づいている事ではないでしょうか。

また、本年度スタートした「ホームカミング制度」は13地区にて、実施され大成功を収める事が出来ました。私たちの育んだ学友たちが母国で活躍されて居る状況を実感できたからです。今年もこの制度を更に拡大致したく存じます。

どうぞ2009年度も変わらぬご理解とご奉仕を心より御願ひ申し上げます。

## 設 立 趣 意 書

財団法人 ロータリー米山記念奨学会

この法人は、主としてアジア諸国、又はその他のロータリー所在国の学生又は学者に対し、わが国において勉強又は研究するための奨学金を支給し、よってロータリーの理想とする国際理解と親善に寄与することを目的として設立する。

この法人は、昭和24年に東京ロータリー倶楽部が設定し、昭和32年に全国のロータリークラブに参加を求めて以来、逐年発展し、今や在日全ロータリークラブの共同事業となり、国際留学生に対する奨学金の支給を通じて、所期の目的たる国際理解と親善にも多大の成果を収めつつある、ロータリー米山記念奨学会の事業と財産を継承し、法人化によってその基礎を確立し、今後一層奨学事業の発展を期するため設立されるものである。

この法人は、全国ロータリークラブの寄付を主たる財源とし、ロータリー会員によって運営され、ロータリー目的達成に寄与することを目的としている。

昭和42年

## (財)ロータリー米山記念奨学会の目的と事業

米山奨学事業は、ロータリーの理想とする国際理解と相互理解に努め、国際親善と交流を深めるために優秀な留学生を支援し、国際平和の創造と維持に貢献することを目的としています。

米山奨学生は奨学期間中にロータリーの例会やロータリーの奉仕活動に参加することによって、日本の文化、宗教、習慣などを学び、社会参加と社会貢献の意識を育て、将来、ロータリーの理想とする国際平和の創造と維持に貢献する人物となることが期待されます。

米山記念奨学会では、日本全国のロータリアンの寄付金を財源として、日本で学ぶ外国人留学生に対して奨学金を支給しています。

年間の奨学金支給額はおよそ12億5千万円、1967年に財団法人として認可されて、これまでに116カ国から15,130名の奨学生を支援してきました。規模と実績ともに民間で最大の留学生奨学団体となっています。

# 2008年度 事業・会計報告

(2008年7月1日～2009年6月30日)

I. 奨学生数と奨学金制度	5
II. 奨学生の募集と選考	6
III. カウンセラー研修会とハラスメント相談室	11
IV. 学友のフォローアップ	11
V. ローターリー米山記念奨学会学友会	14
VI. 広報活動	14
VII. 寄付金	17
VIII. 会議および研修会の開催	19
IX. 庶務事項	22
X. 会計報告	27

## I. 奨学生数と奨学金制度

奨学生	2008学年度	2009学年度	月額奨学金	奨学期間
学部課程奨学生(YU)	121名	136名	10万円	2年以内
	学部3、4年目医、歯、獣医学部5、6年目は国籍により制限があった			
修士課程奨学生(YM)	396名	411名	14万円	2年以内
	大学院修士課程1、2年目			
博士課程奨学生(YD)	270名	240名	14万円	2年以内
	大学院博士課程2、3年目および医、歯、獣医学系博士課程3、4年目			
地区奨励奨学生(DS)	12名	19名	7万円	1年
	短期大学、高等専門学校専攻科、専修学校専門課程、準備教育課程、アジア学院、PHD協会など			
クラブ支援奨学生(CY)	9名	12名	14万円	1年 または6カ月
	学部・修士課程の最終学年に在籍する米山奨学生で、同地区・所在大学の上級課程進学者。博士課程最終学年に在籍する米山奨学生で、博士号取得見込みの者			
現地採用奨学生(JRY) 施行国：ベトナム	4名	6名	7万円	修士2年間 博士3年間
	最終的に日本の受入大学から渡日前入学許可書を受領できる者			
海外学友会推薦奨学生 (SY-A)	1名	2名	14万円	12カ月
	韓国、台湾の学友会が組織する選考委員会より推薦された韓国、台湾の大学・研究機関に所属する常勤の上級研究者(博士号取得者)			
合計	813名 ※1	826名 ※2		

注：学年度は4月から1年間。ロータリー年度とは異なる。

※1 2008学年度は、800名採用。13名多くなっているのは、1名枠で2名採用できる地区奨励奨学生6名、休学による期間延長者7名による。

※2 2009学年度は、800名採用。26名多くなっているのは、休学延長者4名、地区奨励奨学生9名、奨学期間0.5年カウント13名による。

## Ⅱ. 奨学生の募集と選考

### 1. 2009学年度奨学生数と選考

#### (1) 採用数と奨学金別採用枠の設定

2009学年度奨学生数は800名とし、その内訳を学部・修士・博士課程・地区奨励・クラブ支援奨学生枠を792名、海外学友会推薦奨学生枠を2名、現地採用奨学生枠を6名と決定しました。なお、地区奨励奨学金とクラブ支援奨学金は、各地区の採用数の20%以内が採用枠となります。

【2009学年度奨学生採用枠・採用数・応募数】

奨学金種類	採用枠	採用数 (前年度)		応募数 (前年度)
学部・修士・博士課程奨学生	792	818 (808) 継続：180 新規：638	136 (121)	1,427 (1,392) 指定校432 (408)
地区奨励奨学生			411 (396)	
クラブ支援奨学生			240 (270)	
	19 (12)			
			12 (9)	
現地採用奨学生	6	6 (4) 継続：4 新規：2	6 (4)	10 (70)
海外学友会推薦奨学生	2	2 (1)	2 (1)	4 (6)
合計	800	826 (813)		1,441 (1,468)

2009年7月現在

#### (2) 募集と選考 ※ ( ) は前年度を示す。

##### ① 学部・修士・博士課程、地区奨励奨学金制度の募集と選考

奨学生（学部・修士・博士課程、地区奨励）は、各地区で指定した大学及び学校432（408）校の指定校推薦制度によって募集が行われ、359（344）校から1,410（1,378）名、クラブ支援奨学金17（14）名を併せて合計1,427（1,392）名の応募を受付けました。各地区選考委員会にて書類・面接選考を経て合否が2009年2月初旬まで行われました。指定校432校のうち、新たに71※（53）校が指定を受け、昨年度指定校だった47（45）校が今回指定されませんでした。その多くは、有資格者が在籍しない事や前年度指定校になっていたにもかかわらず応募が無かったためです。また、指定を受けたにもかかわらず応募がなかったのは73（64）校、今後、地区選考委員会において大学側への事前の情報収集が必要とされます。

※71校：初指定校27校、復活した指定校44校

##### ■ 高等専門学校専攻科1、2年目を学部3、4年目とみなす制度

2009学年度においては、2720地区で計1校の高等専門学校を指定しました。2008学年度において指定した地区はありませんでした。

ちなみに、2007学年度においては、2600地区、2640地区、2650地区で各々1校、計3校の高等専門学校を指定しました。しかし、既に国費奨学金の継続支給が決定しているため、有資格該当者がいないなどの理由で推薦がありませんでした。

## 【2007学年度 高専選考科を指定した3地区】

2600：長野高専専攻科/2640：和歌山高専専攻科/2650：福井高専専攻科

■地区奨励奨学金制度（大学・大学院以外の学校を指定校とする制度/月額奨学金が大学院生の半額7万円のため、割当数1名枠で2名採用が可能）

2009学年度募集は、下記の通り、7地区が地区奨励奨学金制度を導入し、11校が指定されました。6校が初の指定校となり、このうち被推薦者の応募は6地区10校23名で、最終的に19名が合格しました。

## 【地区奨励奨学金制度の指定校】 ※印：初めて地区奨励奨学金制度を導入した地区

	2007年度採用			2008年度採用			2009年度採用								
	被推薦者	申込数	採用	被推薦者	申込数	採用	被推薦者	申込数	採用						
導入地区 導入件数	2550	アジア学院	4	4	4	2550	アジア学院	4	4	4	2500	帯広大谷短期大学 ※	2	2	2
	2660	JASSO大阪日本語教育センター	2	2	2	2660	JASSO大阪日本語教育センター	2	2	2		釧路短期大学 ※	1	1	1
	2680	(財)PHD協会	3	3	3	2680	(財)PHD協会	3	3	3	2550	アジア学院	2	2	2
		神戸YMCA日本語学校	1	1	1		神戸YMCA日本語学校	1	1	1	2650	敦賀学園短期大学 ※	3	2	2
	2760	愛知江南短期大学	2	0	0	2710	広島YMCA学院専門学校	4	4	2	2660	JASSO大阪日本語教育センター	2	2	2
						2620	日本航空大学校	2	0	0		滋慶学園 ※	2	2	2
							静岡工科専門学校	1	0	0	2680	神戸YMCA日本語学校	1	1	1
							オイスカ開発教育専門学校	1	0	0		(財)PHD協会	3	3	3
						2600	清泉女学院短期大学	2	0	0	2710	広島YMCA国際ビジネス専門学校	4	4	2
											福山YMCA国際ビジネス専門学校 ※	4	4	2	
									2720	有明工業高等専門学校 ※	2	0	0		
合計	4地区	5校	12	10	10	6地区	9校	20	14	12	7地区	11校	26	23	19

## ■地区を越えた大学を指定校とする制度

2570地区が昨年に引き続き、2580地区と2720地区が初めて適用しました。2570地区は埼玉大学（2770）を指定し、2580地区の帝京大学八王子キャンパス（2750）は、大学担当者の大学説明会参加が、指定につながりました。2720地区指定の有明工業高等専門学校（2700）は、学校が集中している熊本市や大分市以外のクラブにも世話クラブのチャンスを与えたいと

## 【地区を超えた大学を指定校とする制度】

2007年度採用		枠	申込数	合格	2008年度採用		枠	申込数	合格	2009年度採用		枠	申込数	合格
2770	お茶の水女子大学	2	2	1	2570	埼玉大学	4	4	1	2570	埼玉大学	3	2	1
	東京大学医学系	2	2	2						2580	帝京大学 (八王子キャンパス)	1	1	1
	聖徳大学	2	2	1						2720	有明工業高等 専門学校	2	0	0
1地区	3校	6	6	4	1地区	1校	4	4	1	3地区	3校	6	3	2

の地区の考えから、地区奨励制度かつ地区を超えた指定校となった初のケースでしたが、有資格者の大学編入が決定したことにより、申込がありませんでした。

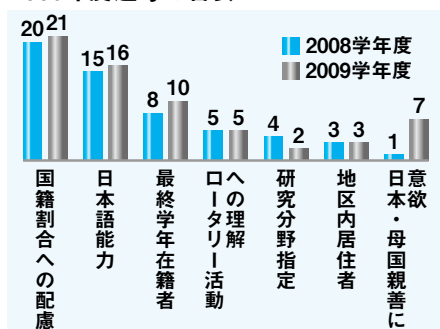
■指定校に対する「地区からの選考の目安」提示地区

25地区が指定校に対して選考の目安を提示しました。

内訳は、「国籍の偏りへの配慮」(21件)が最多となりました。続いて「日本語能力」(16件、うち2地区で日本語能力検定2級程度を明示)と「最終学年在籍者」(10件)が、それぞれ過去最多となり、提示する地区が増える傾向にあります。

また、募集要項で提示している「将来日本と母国の親善を深めること」、「国際社会で活躍し両国の懸け橋となること」を期待する基本項目を挙げた地区が、前年を大きく上回りました(1→7件)。これは、学業優秀性だけでなく、広くコミュニケーション能力と異文化理解・貢献への関心を持つ奨学生を求める地区が増えた結果といえます。

2009年度選考の目安



【傾向概略】( )内数字は、過去→現在の実績を示す。内数字は、前前年度→前年度→現行実績を示す。

1. 「国籍割合への配慮(16→20→21件)」
2. 「日本語運用能力(11→15→16件)」
3. 「最終学年在籍者(奨学期間1年未満の者)(3→8→10件)」
4. 「ロータリー活動への理解・積極参加(5→5→5件)」
5. 「分野指定(4→4→2件)」
6. 「地区内居住者(1→3→3件)」
7. その他 「日本語能力検定試験2級程度の学生」「将来日本と母国との親善を深めようという使命感のある者(1→7件)」

②クラブ支援奨学金制度の募集と選考

世話クラブからの推薦によって応募を受け、各地区の選考委員会によって選考が行われました。8地区17クラブからの応募があり、12名が合格しました。2006年度から応募資格を拡大し、博士課程最終学年の他、修士および博士課程進学者に門戸を広げました。課程延長の博士課程最終学年在籍者6件中4名、修士・博士課程進学者11件中8名となり、上級課程へ進学する奨学生の合格者が半数を越える結果となりました。

【合格数/申込数】

学年度	申込数		博士課程最終学年 合格数/申込数	修士、博士課程進学 合格数/申込数	合格者数
	35件	15地区35クラブ	13/26名	1/9名	
2006	35件	15地区35クラブ	13/26名	1/9名	14名
2007	24件	12地区24クラブ	10/12名	5/12名	15名
2008	14件	9地区14クラブ	4/7名	5/7名	9名
2009	17件	8地区17クラブ	4/6名	8/11名	12名

③海外学友会推薦奨学金制度の募集と選考

台湾学友会および韓国学友会にて選考委員会が組織され、2008年10月から現地にて公募しました。その結果、台湾で3名、韓国で1名の応募があり、現地での書類・面接を経て合格候補者各1名が選出されました。

【合格数／申込数】

年度	採用数／ 採用枠	韓国 合格数／申込数	台湾 合格数／申込数
2006	2／2名	1／2名	1／7名
2007	2／2名	1／2名	1／4名
2008	1／2名	0／0名	1／6名
2009	2／2名	1／1名	1／3名

④現地採用ロータリー米山記念奨学生（Vietnam）の募集・選考・合格

現地採用奨学金は、2007年度採用を初年度とし3年間はベトナムを対象国として試行されています。

試行最終年度となる2009年度採用においては、過去2年間の試行内容を見直した結果、日本語能力試験3級取得を条件とし、研究分野を指定（環境系、情報系、日本文化系、日本語教育系）しました。

また、ベトナム・ホーチミンで実施される面接選考に受入れ地区のロータリアンが選考委員となる方式を採用し、受入れ地区を、過去13年間個人平均寄付額トップである点から、地区全体の米山奨学事業への理解・関心が深いとされる2590地区が理事会で選ばれました。

奨学生募集は、現地商業誌“トイチェ”、“タンニャン”に計4回（2008年8月11日（トイチェ）、13日（タンニャン）、15日（両誌））に広告を掲載しました。募集窓口は、前年度と同じUSSH（ホーチミン市人文社会科学大学）としました。その結果、約50件の問い合わせを受け、10名の応募書類を受付けました。応募者全員が女性で、文化系（日本文化・教育）の大学院修士課程への進学希望でした。応募が少ないのは、研究分野を絞ったことに加えて、日本語能力3級以上を条件に入れたためでした。

最終面接が、2008年12月18日（木）にSaigon Language Schoolで実施され、国際ロータリー第2590地区 清水良夫ガバナー、鈴木憲治委員長、フィン・ムイ博士、および坂下博康事務局長が面接官としてホーチミンに出向き、応募者10名全員の面接を行いました。

フィン・ムイ博士は、米山学友（東京大学大学院理学博士、東京荏原

【2009年度の合格者】

氏名	ホ・ダン・ミ・アン
受入校	選定中
研究内容	初級日本語の教授法
受入地区	2590地区
奨学期間	2009年10月～2011年9月
氏名	チャン・ティ・フウン・ティ
受入校	一橋大学大学院言語社会研究科
研究内容	現代日本における若者言葉についての考察
受入地区	2590地区
奨学期間	2009年10月～2011年9月

RC) で、ベトナム初の私立大学タンロン大学創立者であり、現在、タンロン技術学院院長を務めています。2年目採用から、ホーチミンでの面接官として関わり、その実績から現在ロータリー米山記念奨学会選考委員となっています。

面接の結果、コミュニケーション能力が高く、留学への覚悟と研究にかける熱意、そして日本語運用能力の高さに加え日本留学における研究内容の具体性が高い上記2名を合格としました2名は、2009年9月末に入国する予定です。

試行3年間の応募概要は次のとおりです。

#### 現地採用3年間メニュー

特長	1年目	2年目	3年目
ホーチミン募集	ホーチミン市人文社会科学大学 (USSH) 窓口		
日本語力	日本語力問わず		3級以上
年齢	30歳未満	修士進学：25歳未満	博士進学：30歳未満
現地日本語研修	実施（平日拘束のため辞退発生）		実施せず
研究分野	医学系のみ除く全分野		環境、情報、 日本文化・教育
受入地区・大学指定	指定無し。研究分野に一致する指導教員のいる大学所在地区が最終的に受入地区。 大阪大学大学院博士課程(1)、日本社会事業大学大学院修士課程(1)、早稲田大学太平洋研究科修士課程(1)、神戸大学大学院修士課程(1)		2590地区 所在大学は地区と 近隣地区内
受入教授・大学	面接終了(12月)後に、受入教授・大学選定。 受入決定までに時間がかかる		面接前から受入教授・ 大学選定が可能。
面接官	選考委員・副委員長担当		2590地区面接官
来日後日本語教育	必要に応じて日本語研修実施(4名中1名)		実施せず

#### (3) 2009学年度奨学生数

2009学年度奨学生採用数は、826名でした。超過の内訳は、地区奨励奨学金9名、休学による延長者4名、奨学期間0.5年カウント13名です。

2009学年度奨学生における国籍割合は、中国46.4%（前年度47.1%）、韓国13.2%（14.3%）、台湾6.3%（6.6%）、その他34.1%（32.0%）となりました。選考委員会で、国籍割合の目安を3割以下にされるよう各地区へ通知をしていますが、在日留学生数の約60%を占める中国籍の留学生の率は依然高くなっています。

## 2. 地区別奨学生（学部・修士・博士課程、地区奨励、クラブ支援）採用数の算出基準

2009学年度奨学生（学部・修士・博士課程、地区奨励、クラブ支援）採用数792名の地区別採用数の算出方法は、以下の基準で算出しました。地区別有資格者数は、全国2008年4月現在の新設大学・大学院11（前年度15）校を含む755大学および高等専門学校64校を対象に2008年5月に行った調査を基にしています。

- ① 1割（79名）を地区別有資格者数比率で34地区に割り当てる

- ② 5割（396名）を2005年度個人平均寄付額比率で34地区に割り当てる
- ③ 4割（317名）を2005年度寄付総額比率で34地区に割り当てる

有資格が多い地区への配慮から、全体の1割が地区別有資格率によって割り当てられています。これにより、2580地区が14.2名、2750地区10.0名、2650地区5.6名、2760地区5.0名、2660地区4.2名など、寄付額とは別に地区内留学生の有資格率に比例して奨学生採用が割り当てられています。

### Ⅲ. カウンセラー研修会とハラスメント相談室

ロータリー米山記念奨学会事業の特長である「カウンセラー制度」の充実と強化を図ることを目的に、全地区で米山カウンセラーを対象とした研修会の実施を呼びかけました。研修会は19地区で実施され、約550名が参加しました。

カウンセラー経験者同士や先輩カウンセラーからのアドバイスが、カウンセラーや世話クラブが抱える問題点の解決に役立ち、研修会実施が必須であると認識できたとの評価を得ました。実施にあたっては、パワーポイントによるプレゼンテーション資料をはじめ、カリキュラム例やカウンセラーアンケート調査結果を提供し、留学生政策事情や異文化理解に関する文献の紹介を行いました。

年度	開催地区数
2002	9
2003	24
2004	19
2005	22
2006	20
2007	17
2008	19

なお、ハラスメントの無い奨学事業を目指して、2008年4月に「ハラスメント相談室」を開設しました。奨学生として、ロータリアンとして、セクシャルハラスメント（性的嫌がらせ）やパワーハラスメント（地位や権限を利用した嫌がらせ）への認識を深めることが求められている点を強調し、何に気を付ければよいのか、文化や習慣による誤解から生ずる事例などを紹介した資料として“ハラスメント相談室のご案内”を作成し、奨学生ハンドブックに掲載しました。ハンドブックは、奨学生、世話クラブ、カウンセラー、および役員や委員あてに配付しました。4月～5月にかけて実施される「奨学生オリエンテーション」では、“ハラスメント相談室のご案内”を使用してご説明いただくよう全地区に呼びかけました。

### Ⅳ. 学友のフォローアップ

#### 1. 米山学友ホームカミング制度

活躍する学友を地区に里帰りさせ、旧交を温め、その成長と活躍ぶりをアピールしてもらうための“米山学友ホームカミング制度”が設立されました。初年度である今年度は、13地区での実施と2名の奨学会広報企画による招へい、

ホームカミング制度により里帰りが実現した15名

	地区	学友氏名 (敬称略)	国籍	現在の活躍	招へい期間／ 参加行事	世話 クラブ
1	2750	イ ヒョンギ 李 賢起	韓国	日本語研究者としてNHKハングル講座やKBSテレビ日本語講師など、長年日韓学術交流に貢献し、2006年、日本政府から旭日章を授章。	2008/10/7-12 (6日間) 2750・2620卓話／ カウンセラー研修会	東京 世田谷
2	2500	シャオ ニン 肖 寧	中国	四川省疾病対策センター副所長。四川省地震の際、直後から被災地で感染症予防のために活動。その功績が評価され2008年10月中国政府から表彰。	2008/10/9-14 (6日間) 地区大会ほか	旭川
3	2710	リュウショウマイ 劉 曉梅	中国	日中両国の福祉分野の研究・政策提言・実地指導において幅広く活躍。日中双方の行政プロジェクトや学術交流において専門家として参画。	2008/10/10-15 (6日間) 地区大会ほか	広島 西南
4	2590	ジャン レイ 張 蕾	中国	大連海事大学の日本語学副教授として活躍。日本語能力検定1級合格率9割の実績を持つ。	2008/11/4-10 (7日間) 地区大会ほか	神奈川 東
5	2770	リン シジェー 林 錫杰	台湾	(財)食品工業研究所生物資源センター研究員。タンパク質工学の専門を生かし、台湾政府の食品政策・食品産業界のサポートに携わる。	2008/11/10-16 (7日間) 地区大会ほか	越谷
6	2620	キャンサーン・ スバンニー	タイ	母国大学で理学部教授として教鞭をとる。タイ王室王女の御研究を支える。	2008/11/13-20 (7日間) 地区大会ほか	静岡北
7	2730	ソウ ジントク 宋 仁徳	中国	青海省で「草地生産と生態保護の両立」の研究・調査活動に携わる。	2008/11/14-20 (7日間) 地区大会ほか	西都
8	2660	チェン シチャン 陳 思乾	台湾	台北東海ロータリークラブ会員、2001-02年度会長。2006年台湾米山学友会主催シンポジウムを開催した。	2008/12/4-7 (4日間) 地区セミナー等	大阪 淀川
9	2580	ハ ジェグン 河 在根	韓国	母国大学の電子材料工学科学科長、磁気デバイスの専門家。環境問題に関する日韓共同研究を行う予定。	2009/2/25-28 (4日間) 地区大会ほか	東京 本郷
10	2830	リン メイツウ 林 美志	台湾	経営財務論を学び、母国で日系企業に勤務し、日本語能力とともに社内の信頼を得ている。地区で学友会設立の際は、率先して入会。	2009/3/5-3/9 (5日間) クラブ例会ほか	青森東
11	2670	ハック・ユー	カンボジア	日本の電力会社に就職後、母国の力になりたいと日本とカンボジアの合弁企業による経済特区開発事業の技術管理者として、また両国スタッフの橋渡しとして活躍。	2009/4/7-14 (8日間) 地区大会ほか	徳島
12	2570	ワンフェーチェン 王 惠娟	台湾	経営学を学び、帰国後、会社を設立し現在社長を務める。台中文心ロータリークラブ会員。	2009/4/16-20 (5日間) 地区大会ほか	川越
13	2550	ハクレイファン 白麗芬	中国	大連の大学で日本語講師を務める傍ら外国人向け中国語学校を経営。主に日本人へ日常・ビジネス中国語、日系企業雇用の中国人へ日本語研修を行う。日系企業の社員募集時にはボランティアをしている。	2009/4/23-29 (6日間) 地区大会ほか	西 那須野
14	広報 企画 2630	アルチャナ・ シュレスタ・ ジョシ	ネパール	ネパールの貧困女性支援のため、縫製や刺繍の技術を教える職業訓練施設を設立。ラリトプールロータリークラブ会員。	2009/2/27-3/16 (18日間) 地区大会ほか	鈴鹿西

	地区	学友氏名 (敬称略)	国籍	現在の活躍	招へい期間/ 参加行事	世話 クラブ
15	広報 企画 2770	キム ヒョンファン 金 玄 勲	韓国	社会福祉法人「幸福創造」理事長、ソウル市在宅老人福祉協会会長、Kids' AU韓国代表など、こどもから高齢者までを対象に真心を込めた社会福祉事業に力を注いでいる。	2009/5/30-6/3 (4日間) 理事会・評議員会 ほか	大宮 南西

合計15名の学友の里帰りが実現しました。実施した地区からは、米山記念奨学事業の成果について、多くの会員の皆様にご理解いただき、学友との絆を一層深める良い機会になったとの多数の声寄せられました。15名のホームカミングの記録を冊子「2008年度ホームカミング制度実施報告」にまとめ、役員・委員に配付しました。

## 2. 災害・感染症流行時における学友・奨学生への対応

事務局では災害や感染症など特別なケースが生じた場合、注意を促し、奨学生や関係者に安否の確認や被害状況の確認などを行っています。

2009年4月6日、イタリア中部周辺にマグニチュード6.3の地震が襲いました。当会では、イタリア出身の奨学生および学友18名にお見舞いのメールを配信しました。特に大きな被害の報告はありませんでした。

また2008年度は、新型インフルエンザが世界的に大流行しました。奨学生への注意と対応に関して、5月8日付にて、全奨学生826人へ「新型インフルエンザに関する注意」を一斉メールにて配信し、Eメールを持たない奨学生には、同文を郵送しました。その結果、お礼や健康でいるとの報告などの返信が23件ありました。また、同注意喚起のメールは、5月18日に、全地区ガバナー事務所経由にて役員・委員に転送していただき、また、カウンセラーメーリングリストへも配信しました。これにより、奨学生をはじめ関係者が適切な予防措置の知識と対応情報を得ることができ、発症国・感染国出身や帰国者への必要以上の警戒によって、奨学生が不安になることがないように対応を願いました。

発生事項	対象
①イタリア中部地震(2009年4月6日)	18名(奨学生:1人/学友:17人)
②新型インフルエンザ(2009年4月末頃~)	826名

## 3. 学友・奨学生に対する定期的なメール発信

メールを活用し、学友をはじめ奨学生あてに誕生祝いメッセージを発信しました。定期的なメールの発信により、学友のロータリーファミリーの一員としての帰属意識を高める結果となり、連絡先変更や母国での活躍振りなどが知らされました。

## V. ロータリー米山記念奨学会学友会

### 1. 組織

2009学年度で奨学生の累計は、15,130名となりました。そのうち学友は、14,303名（長期休学1名）となり、日本に滞在している学友は、約3,820名です。現在、日本国内に29の学友会（33ロータリー地区）、海外では韓国、台湾、中国の3団体、計32団体の米山学友会が組織されています。各学友会では、奨学生終了後もロータリー会員・家族や学友同士の交流が続けられています。ロータリーの国際奉仕活動の目的に沿って展開されている主な活動は、総会、親睦会、学術セミナー、研修旅行および地区米山奨学委員会と連携した奉仕活動、新奨学生のオリエンテーション、セミナー、歓送会への協力などです。

### 2. インターネットを通じた学友会活動

各学友会では、メーリングリストが作成され、学友間でのメール交換、ホームページで学友会活動を紹介するほか、ロータリアン、ガバナー事務所との連絡や情報交換も活発に行われるようになってきました。

### 3. 学友会への情報提供

学友のデータ（氏名・奨学期間・連絡先等）を学友会会長やガバナー事務所などに対して開示しています。連絡網をデータ化することにより各学友会で必要に応じた会員への情報発信ができます。ただし、個人情報の保護を遵守するため、その扱いについては万全を期しています。

## VI. 広報活動

### 1. 新しい事業紹介DVD「すばらしい贈り物」の制作

米山記念奨学事業の新しいPRビデオ（DVD）「すばらしい贈り物」（22分）を制作しました。

前作から5年以上経過し、新しいビデオの要望が年々多く寄せられていたほか、国際ロータリーの定める多地区合同奉仕活動として認められるなど、近年米山奨学事業をとりまく状況が変化していました。また、顕著な活躍を遂げる学友の情報も整理されつつあることから、クラブ会員への事業理解推進策として、新ビデオ制作が実現しました。

このDVDは米山月間の“目玉”として、全クラブにDVD 1枚を送付したほか、希望者へ送付。『ロータリーの友』“よねやまだより”や、全国のガバナー・ガバナーエレクトが集まる場などで、地区やクラブでの利用を積極的に呼びかけました。〔制作数：DVD 3,500枚、VHS 250本（3年間分）〕

## 2. ロータリーの友・よねやまだより

ロータリー地域雑誌「ロータリーの友」の協力を得て、同誌に米山記念奨学事業のページ“よねやまだより”を掲載しました。奨学事業の一つの“成果”として、支援した元奨学生の活躍を知りたいというニーズに応え、11月号からは「世界へはばたけ！米山学友」シリーズを掲載し、特に顕著な活躍をする学友たちの姿を毎号紹介しました。また、コラムでは、奨学事業に関わる最新情報を広く知らせるよう努めました。

## 3. ロータリー米山記念奨学事業・豆辞典

米山月間用資料として、奨学事業の概要をコンパクトにまとめた小冊子を作成し、全ロータリークラブへそれぞれ会員数分配布しました。〔制作数：116,000部〕

また、豆辞典に沿った事業紹介用パワーポイントファイルを、全国ガバナー事務所及び地区米山記念奨学委員長、希望者へメール配信しました。

## 4. 米山学友の群像vol.2

巣立った奨学生たちが、現在どのような活躍をしているのか、ロータリーで体験したことが、その後の人生にどのような影響を与えたのか、奨学事業の成果を知らせる広報資料として、『米山学友の群像』の第2号を2007年9月中旬に発行しました。2008年度については、地区協議会資料として各地区に配布したほか、希望クラブへ送付しました。

## 5. クラブ米山記念奨学委員長の手引き

クラブ米山記念奨学委員長の事業理解推進のため、基礎知識集としての「クラブ米山記念奨学委員長の手引き」（米山寄付金マニュアルとの合冊）を発行し、米山月間資料として、全ロータリークラブに1部ずつ送付しました。また、地区協議会資料として、各地区に必要な部数を送付しました。〔制作数：6,500部〕

## 6. 事業報告書（Annual Report、統計・資料編）

**Annual Report**：2007年度事業報告書として全ロータリークラブおよび大学、留学生奨学団体等関係団体に配布しました。事業報告および収支決算報告とあわせて2008年度の事業計画・予算や役員・委員名簿および過去2回行われた基礎調査と2006年度制度改編からみえた課題について記載しました。〔制作数：4,000部〕

**統計・資料編**：奨学事業全般の統計・資料、学友会活動、留学生事情、寄付金実績などのデータ集として理事、監事、評議員、専門委員、米山奨学委員長に配布しました。〔制作数：4,000部〕

## 7. 米山奨学事業ハンドブック

地区での米山奨学事業の推進に必要な事項を詳述したハンドブックです。特に、奨学生募集・選考から合否、世話クラブ・カウンセラー依頼と選定、オリエンテーション実施など奨学生の受入れと奨学期間中のケアおよび歓送会に至るまでの手順を説明しています。なお、「奨学生選考ガイドライン」を示し、公平で差別のない選考が各地区選考委員会ですすめられるよう呼びかけています。

## 8. 米山カウンセラー・ハンドブック

世話クラブ、カウンセラーの役割、奨学生の心得と各種手続きおよびカウンセリング事例などについて記載した米山カウンセラーおよび世話クラブ関係者必携の冊子です。冊子巻末に、“ハラスメント相談室開設のご案内”と“奨学生ハンドブック”が合併されています。

ロータリアンとして、ハラスメントへの認識を深め、ハラスメントの無い奨学事業推進を呼びかけました。

## 9. 米山奨学生ハンドブック

奨学生として知っておくべき“ロータリーの歴史と目的”や“奨学事業の目的”や、奨学生としての義務と責任を記載しました。また、奨学生が行う各種手続きを説明し、カウンセラーをはじめとしたロータリアンとの交流で留意する点をQ&A形式で分かり易くまとめました。

また、“ハラスメント相談室の開設”をコラムで紹介するなどハラスメントへの認識を呼びかけました。

## 10. 広報用ポスター・バナー

地区協議会や地区大会会場に展示するための奨学事業紹介ポスター（A2サイズ×2枚組）を作成し、全地区のガバナー事務所および希望クラブに配布しました。また、大型展示資料として好評を得ている事業紹介バナー（2セット）を地区大会などの展示用に貸し出しました。

## 11. ホームページ <http://www.rotary-yoneyama.or.jp/>

幅広い広報と情報公開を目的にホームページを開設しています。

新しい奨学金プログラムの詳細や奨学生・学友の活動報告、奨学生の提出書類、Web版「ハイライトよねやま」、事業報告書や財務諸表といった米山奨学事業情報を掲載しています。また、地区別の寄付金納入明細表も毎月公開しています（ID・パスワード付）。英語・中国語・韓国語のページを設け、多言語化に対応した情報提供も行っています。なお、このホームページは、ロータリー・ジャパンのサイトにリンクして、広くロータリアンに情報を提供しています。

## 12. 電子メールによる情報発信・提供：ハイライトよねやま

Eメールとホームページを通じ、ロータリアン向けに「ハイライトよねやま

ま」を発行し、奨学事業の最新ニュース、寄付金状況速報、学友情報などを発信しました。

### 13. カウンセラーメーリングリスト

Eメールアドレスを保有するカウンセラー経験者が任意で参加し、活動の紹介や相談・アドバイスによる情報共有とコミュニケーションを図りました。

## Ⅶ. 寄付金

### 1. 寄付金の実績

	寄付金額	本年度予算比	前年度決算比
普通寄付金	424百万円	1.75%減	1.06%減
特別寄付金	1,070百万円	5.08%増	4.57%増
合計	1,494百万円	3.04%増	2.91%増

### 2. 寄付クラブ・個人・法人の表彰

#### (1) 達成クラブ（普通寄付金および特別寄付金合計額）

達成金額	達成クラブ数	達成クラブ名	備考	
			創立年月日	会員数
1億4千万円	2	※ 京 都 南ロータリークラブ	1954/ 3/11	223名
		※ 名古屋名東ロータリークラブ	1978/ 6/20	51名
1億3千万円	1	※ 大 阪 南ロータリークラブ	1922/11/17	268名
1億2千万円	1	京 都 南ロータリークラブ	1925/10/ 7	199名
1億1千万円	4	東 京 江 北 南ロータリークラブ	1960/ 3/17	56名
		奈 良 南ロータリークラブ	1952/ 3/27	144名
		※ 東 京 南ロータリークラブ	1920/10/20	332名
		※ 東 京 南ロータリークラブ	1950/ 8/ 4	177名
1億円	4	横 浜 南ロータリークラブ	1962/ 3/30	85名
		京 都 西ロータリークラブ	1958/ 2/ 3	112名
		※ 横 浜 南ロータリークラブ	1927/ 6/ 1	175名
		※ 大 阪 南ロータリークラブ	1952/12/16	136名
9千万円	6	土 浦 南ロータリークラブ	1958/ 2/14	61名
		東 京 西ロータリークラブ	1955/ 6/23	151名
		岸 和 田 南ロータリークラブ	1954/ 5/19	48名
		大 津 南ロータリークラブ	1950/12/19	114名
		大 阪 東 南ロータリークラブ	1957/ 6/ 6	125名
		大 阪 北 南ロータリークラブ	1952/12/16	175名
8千万円以下では				
8千万円達成クラブ数： 5クラブ (4) 7千万円達成クラブ数： 12クラブ (2)				
6千万円達成クラブ数： 22クラブ (7) 5千万円達成クラブ数： 49クラブ (11)				
4千万円達成クラブ数： 114クラブ (19) 3千万円達成クラブ数： 239クラブ (26)				
2千万円達成クラブ数： 413クラブ (26) 1千万円達成クラブ数： 637クラブ (32)				

注：※本年度達成クラブ、会員数は1月1日現在 ( ) は本年度達成クラブ数

## (2) 功労者、功労クラブ、功労法人、特別功労法人

	本年度増加数
米山功労者	6,290名
米山功労クラブ	825クラブ
米山功労法人	6社
米山特別功労法人	7社

### 米山功労者表彰者実数（10万円毎）

第1回：2,064名	第2回：1,053名	第3回：756名
第4回：863名	第5回：475名	第6回：255名
第7回：191名	第8回：121名	第9回：98名
第10回：98名	第11回～第19回：212名	第20回～第29回：50名
第30回～第39回：21名	第40回～第49回：12名	第50回以上：21名

## (3) 2008年度高額寄付達成者

### 【個人寄付】

坂本精志氏（2760：名古屋名東RC）累計額115,420,000円

### 【法人寄付】

岡城産業 株式会社（2700：福岡南RC）累計額7,000,000円 富永 泰氏

## (4) クラブ創立記念特別寄付

地区	クラブ数	寄付合計	地区	クラブ数	寄付合計
2500	2	60万円	2620	3	50万円
2520	1	20万円	2750	10	220万円
2550	1	10万円	2770	4	80万円
2560	1	10万円	2780	1	10万円
2790	1	10万円	2630	1	10万円
2830	1	100万円	2640	1	30万円
2840	2	20万円	2690	1	20万円
2570	1	10万円	2760	15	490万円
2580	13	370万円	2670	6	150万円
2590	5	116万円	2710	2	20万円
2600	6	140万円	2730	7	135万円
2610	3	55万円	合計88クラブ		2,136万円

## (5) 地区大会記念寄付

地区	寄付合計	地区	寄付合計	地区	寄付合計
2510	100万円	2590	88万円	2780	30万円
2550	30万円	2600	50万円	2690	20万円
2790	30万円	2750	50万円	10地区 合計	438万円
2820	30万円	2770	10万円		

## Ⅷ. 会議および研修会の開催

### 1. 評議員会

2008年度 第一回 評議員会		
日時・場所	出席者	議 事
2008.8.28 (木) 13:00~15:05  場所： メルパルク東京	出席 : 38名 議決権行使書提出 : 22名 列席 : 10名 欠席 : 8名 計 : 78名	議長: 崎山征雄評議員 a. 評議員任命の件 b. 2007年度第二回評議員会議事録承認の件 c. 2007年度 事業報告案承認の件 d. 2007年度 収支計算の件 監事による監査報告 e. その他、理事会予定議案、常務理事会・専門委員会報告、庶務報告
2008年度 第二回 評議員会		
日時・場所	出席者	議 事
2009.6.1 (月) 13:25~14:35  場所： メルパルク東京	出席 : 47名 議決権行使書提出 : 17名 列席 : 10名 欠席 : 3名 計 : 77名	議長: 櫻井権司評議員 a. 2008年度 第一回評議員会議事録承認の件 b. 理事・監事選任の件 c. 2008年度 収支予算修正案の件 d. 2009年度 事業計画案の件 e. 2009年度 収支予算案の件 f. その他、理事会予定議案報告、会計収支報告、常務理事会・選考委員会・専門委員会報告、庶務報告

### 2. 理事会

2008年度 第一回 理事会		
日時・場所	出席者	議 事
2008.8.29 (金) 13:00~14:40  場所： メルパルク東京	出席 : 28名 議決権行使書提出 : 8名 列席 : 1名 欠席 : 2名 計 : 39名	議長: 板橋敏雄理事長 a. 2007年度 第三回理事会議事録承認の件 b. 2007年度 事業報告の件 c. 2007年度 収支計算の件 監事による監査報告 d. 2008年度 収支予算一部修正案の件 e. その他、評議員会予定議案、常務理事会・専門委員会報告、庶務報告
2008年度 第二回 理事会		
日時・場所	出席者	議 事
2009.6.2 (火) 13:20~15:10  場所： メルパルク東京	出席 : 30名 議決権行使書提出 : 5名 列席 : 2名 欠席 : 1名 計 : 38名	議長: 板橋敏雄理事長 a. 2008年度 第一回理事会議事録承認の件 b. 評議員選出の件 c. 役員候補者指名委員選出の件 d. 2010学年度奨学生採用の件 e. 2008年度 収支予算修正案の件 f. 2009年度 事業計画案の件 g. 2009年度 収支予算案の件 h. その他、評議員会予定議案、会計収支報告、常務理事会・選考委員会・専門委員会報告、庶務報告

### 3. 常務理事会

日 時	出席者	主な議事
2008. 8. 7(木)	出席 :10名 欠席 :2名 計 :12名	前述の理事会・評議員会での議事事項に加え、以下の件につき審議した。 a. 専門委員の委嘱の件
2008.12. 4(木)	出席 :10名 欠席 :2名 計 :12名	b. 学友ホームカミング制度の件 c. 活動費および補助費要領一部改定の件 d. 資産運用規程・勘定科目要領改定の件
2009. 3.26(木)	出席 :10名 欠席 :2名 計 :12名	e. 普通預金口座の解約・開設の件 f. 募集要項一部改定の件 g. ガバナー・エレクト／次期米山奨学委員長合同セミナー開催の件
2009. 5. 7(木)	出席 :11名 欠席 :1名 計 :12名	h. 現地採用奨学金制度一部改定の件 i. 給与規程および臨時事務局員規程改定の件 j. 学友版DVD製作の件 k. 理事会・評議員会の議案の件 l. ロータリーの友「よねやまだより」契約更新の件 m. シンボルマークの件 n. 2009年度独立監査人選定の件

### 4. 選考委員会

日 時	出席者	主な議事
2008.8	書面審査	a. 新たに指定校となった学校への評価と指定校432校承認
2008.12. 2(火)	出席 :5名 列席 :1名 欠席 :2名 計 :8名	b. 交通事故による留年者を有資格とみなす申請の件 c. 指定校確認の件 d. 第1期(2007~2009学年度採用)現地採用奨学金制度の総括、および意義の確認と今後の試行の是非
2009. 2.20(金)	出席 :4名 欠席 :4名 計 :8名	e. 現地採用奨学金制度4年目以降実施の件 f. 2009学年度米山記念奨学生採用の可否承認

### 5. 専門委員会

専門委員会	開催日	主な議事
財務委員会	2009. 1.21(水) 2009. 4.22(水)	a. 2008年度 資産運用担当財務委員選任の件 b. 2008年度 資産運用方針の件 c. 2009年度 資産運用方針の件 d. 2009年度 独立監査人選定の件 e. 2008年度 収支予算修正案の件 f. 2009年度 収支予算案の件 g. 2009年度 資産運用規程改定の件 h. 勘定科目要領改定の件 i. 普通預金口座の解約・開設の件 j. 寄付状況の件

専門委員会	開催日	主な議事
広報委員会	2008. 8.18(月) 2008.11.13(木) 2009. 3.12(木)	a. 2008年度広報ツールについての評価 b. 学友版DVD制作の件 c. 情報格差を埋めるために～キーパーソンの整理と対応策の検討 d. 2009年度広報重点方針と施策の件 e. 「ロータリーの友」よねやまだよりの契約更新の件
学務・学友委員会	2008.11.17(月) 2009. 3.10(火) 2009. 4.16(木)	a. 活動費および補助費要領一部改定の件 b. 2009年度米山学友ホームカミング制度の意義と継続 c. 確約書一部改定の件 d. 2620地区(静岡・山梨)学友会設立の件 e. 米山記念奨学会中国学友会設立の件 f. 現地採用奨学金制度4年目以降実施の件 g. 地区別奨学生採用数算出見直しの件 h. 2010学年度奨学生採用数および奨学金別採用数内訳の件 i. 2010学年度募集要項見直しの件 j. 制度改編の変遷と見直しの件

## 6. 研修会の開催

### (1) 2009-10年度ガバナー・エレクト研修会／米山奨学委員長合同セミナー

全国34地区のガバナー・エレクトと2009-10年度地区米山奨学委員長を対象とする合同セミナーが2008年12月8日に都内で開催されました。米山記念奨学事業への理解を深めていただくとともに、地区における積極的な推進を呼びかけました。

#### プログラム (主なもの)

##### 午前の部

- ・板橋理事長挨拶
- ・田中作次氏(元RI理事、現ロータリー財団管理委員)基調講演
- ・関博子氏(第2750地区米山記念奨学委員長)講演「魅力ある地区での奨学事業推進」

##### 午後の部

- ・卓話1 現役奨学生 何京玉さん(中国／広島東南RC)
- ・卓話2 米山学友 陳思乾さん(台湾／大阪淀川RC)
- ・全体フォーラム テーマ:「もっと身近に感じる奨学事業推進とは」

コーディネーター 高木貞一郎常務理事

田村亮夫氏(広報委員長)、近藤雅臣氏(常務理事)、渡辺喜代美氏(第2500地区米山記念奨学委員長)

### (2) 米山奨学事業に関する意見交換

2008年8月開催および2009年6月開催の評議員会・理事会終了後、意見交換を行いました。現地採用奨学金や奨学生採用、広報のあり方など現状の課題について積極的な意見がだされました。

## IX. 庶務事項

### 1. 登記

理事および資産総額変更の登記は、2008（平成20）年9月24日に完了しました。

### 2. 文部科学省関連

#### ■特定公益増進法人証明書

2008年9月5日（金）に、文部科学省高等教育局学生支援課へ特定公益増進法人の証明書交付の申請をし、10月31日（金）に受領しました。

なお、証明書の有効期間は発行日から2年間となります。

### 3. 監査

#### (1) 外部監査

下記のとおり、会計および会計書類その他の手続について、永山茂行公認会計士による監査を受けました。

〔監査日〕

2008年7月分……2008年8月25日	2009年1月分……2009年2月25日
〃 8月分…… 〃 9月25日	〃 2月分…… 〃 3月30日
〃 9月分…… 〃 10月28日	〃 3月分…… 〃 4月30日
〃 10月分…… 〃 11月26日	〃 4月分…… 〃 5月25日
〃 11月分…… 〃 12月25日	〃 5月分…… 〃 6月18日
〃 12月分……2009年1月27日	〃 6月分…… 〃 7月14日

#### (2) 監事監査

監事は永山茂行公認会計士の監査報告を受け、下記のとおり会計報告および業務の執行につき監査を行いました。また、業務監査を行うため、常務理事会に出席しました。

2008年7～9月分…2008年11月19日 実施

2008年10～12月分…2009年2月19日 実施

2009年1～3月分…2009年5月21日 実施

2009年4～6月分…2009年7月21日 実施

### 4. 駐日韓国大使が元米山奨学生



第18代駐日本国大韓民国特命全権大使（駐日韓国大使）権哲賢（クォンチョルヒョン）氏が元米山奨学生であることが確認できました。

権氏は釜山出身。延世大学卒業後、1987年に筑波大学大学院で博士号を取得。1984年4月から1987年3月までの3年間を米山奨学生として過ごしました。世話クラブは佐野

東RC（第2550地区）。帰国後は、東亜大学教授などを務め、1996年から国会議員に3回連続当選、大統領選では李明博氏の補佐官を務めました。2008年4月15日、李明博大統領から駐日韓国大使として任命されました。近年の韓国政界で数少ない知日派の1人で、日本政界に知己が多く、駐日大使への起用は「日本語ができて政治力があり、重みのある人物として評価された結果」との見方もあります。

なお、第14代駐日韓国大使の崔相龍（チェサンヨン）氏も米山学友であります。

## 5. 中国に学友会が誕生！

今や国籍別の米山奨学生数および学友数のトップを占める中国。国情から正式なロータリークラブも認められておらず、米山学友会の設立も長年検討されながら実現に至っておりませんでした。しかし、このたびついに、中国在住の学友が力を合わせて「米山記念奨学会中国学友会」を発足。その設立総会が2009年3月28日に北京市内のホテルで開催され、中国全土および日本から87名の学友が駆けつけ、盛大に執り行われました。初代会長には、中国学友会華北分会会長の姫 軍（ジジュン）さん（1995-97／東京臨海RC）が、副会長には同上海分会会長の張 晋岩（チョウ シンガン）さん（1993-95／鈴鹿西RC）がそれぞれ選任されました。

## 6. 寄付金情報

### (1) 1億円寄付

2008年12月、名古屋名東RC会員の坂本精志氏より1億円の寄付がありました。経営するホシザキ電機株式会社（本社：愛知県豊明市）の上場にあたり、株の売却益の一部を日頃から関心を寄せる団体に寄付。その一つに米山奨学会を選ばれました。なお、坂本氏は2009年4月から三度目のカウンセラーを務められています。また、博士課程に進学した学友を援助するなど、外国人留学生の支援をしています。

### (2) 一般の方から遺贈寄付

名前は公表できませんが、既にご主人も他界され、お子さんもない第2780地区に居住していた女性が亡くなられ、2009年2月2日付で200万円の遺贈寄付をいただきました。生前、「万一の場合には200万円をどちらかに寄付したい」と遺言執行人に話しをされ、執行人の友人であった元ロータリアンに寄付先の相談をされたのです。元ロータリアンはロータリー財団と米山奨学会を紹介したところ、その女性は「海外から日本へ留学する若い人たちにために是非使って欲しい」と当会に寄付されることを決意してくれました。

### (3) 遺言寄付金

元理事の故衣笠秀夫氏（第2820地区・水戸RC）は、生前に寄付目標額を

定め積み立てていく遺言寄付制度を自ら発案されました。2001年12月、1千万円を目標額と定めた申請書を提出しています。2007年8月14日に享年86歳でご逝去されるまで毎年寄付を頂戴し、寄付額は662万円に達しました。このたび2008年10月31日にご遺族から寄付を頂戴し目標額の1千万円を達成されました。

なお、ご遺族に感謝の意を表して2009年4月開催の第2820地区大会において板橋敏雄理事長から感謝状を贈呈しました。

衣笠秀夫：1982-83PDG 1996～2000年度：理事（5年間） 1999～2001年度：学務委員（3年間）
---

#### (4) 逗子ロータリークラブから100万円寄付

2009年2月20日付で逗子ロータリークラブから「Y.F.C. (Youngster Fund Contribution・青少年基金)」の取り崩しに際して、その一部を米山記念奨学会に100万円の寄付をいただきました。このY.F.C.は20年ほど前から17名のロータリアンが一定額になるまで積み立てていた基金で、ここ近年は利息のみで運用されていました。現在、この積み立てに関わっていた多くのロータリアンが退会され、また高齢になられたこともあり、取り崩すことがクラブの理事会で決定されました。「せっかく積み立てたお金なので、何も使わずに眠ってしまっているのはもったいない。米山などに寄付して有効に活用しましょう！」とロータリー財団と当会に100万円ずつ寄付していただきました。

#### (5) 学友からの寄付

- ・姫 軍さん（中国／1995-97／東京臨海RC）

2007年、08年と、2年連続で北京から50万円を送金してくれた姫さんから、2009年3月12日付けで50万円の送金がありました。2008年10月に東京RCから招へいされ、卓話をした際の交通費・謝礼17万円も、米山奨学会への寄付していただいています。

- ・張 虞安さん（中国／1998-2000／交野RC）

2007年10月のアメリカから1,000ドル（当時の為替レートで約11万2千円）の寄付に続き、2008年11月にも世話クラブの交野RC（第2660地区）を通じて、1,000ドルを寄付してくれました。これで累計が20万円を超え、第2回米山功労者マルチプルとなりました。昨年、「恩返しのために米山奨学会の寄付金を増やすのは、私が一生をかけて目標とすることの一つです」と語っています。

- ・田 鎬鎮さん（韓国／1992-94年／横浜鶴峰RC）

“月に煙草1箱を節約して”を合い言葉に募金を推進した話に感銘を受けて、2005年10月から実際に禁煙して毎月1万円を寄付され、今年3月に累計40万円（第4回米山功労者マルチプル）を達成されました。表彰

式が5月30日（土）に行われ、板橋敏雄理事長が祝辞を述べ、感謝状を田さんに手渡されました。同地区の清水良夫ガバナー、中山義之米山奨学会理事、鈴木憲治地区米山奨学委員長のほか、田さんの元カウンセラーや米山学友ら多数のゲストも祝福に駆けつけました。田さんは、「親族の戦争体験から、かつての私は日本に対してわだかまりがあり、留学を終えたらすぐ帰国しようと思っていた。実際に日本で暮らし、親切で誠実な国民性に驚き、心惹かれながらも、どこか素直になれなかった。しかし、留学中の苦しい時期を支えてくれた日本人の親切さ、ロータリーの皆さんとの出会いが私を変えてくれた。私の夢である日韓両国でのビジネス展開を目標に、日本と韓国の友好のために力を尽くします」と、感謝を込めて語ってくれました。

・匿名希望Aさん（台湾）

2009年1月1日付で、遺言寄付として100万円を米山奨学会へ遺贈する申込書を当会へ提出いただきました。

## 7. 賠償保険加入

2007年12月25日に正式に加入した賠償責任保険を引き続き1年間の再契約を締結しました。

期間：2008年12月25日～2009年12月25日

## 8. 奨学団体連絡協議会（JISSA）

連絡協議会では総会、分科会を開催し留学生問題や奨学団体としての問題提起や情報交換を行いました。

続々

## 学友会 設立

第2830地区（青森県）：設立2008年7月13日



第2620地区（山梨県・静岡県）  
：設立2009年3月1日



米山記念奨学会中国学友会：設立2009年3月28日（P23参照）



## 新しいDVDのご案内

「素晴らしい贈り物」（2008年8月作成）はロータリアンと奨学生のふれあいをテーマに、「心をつないで、世界へ」（2009年7月作成）は学友の活躍に焦点を当てました。ぜひ、ご覧下さい。

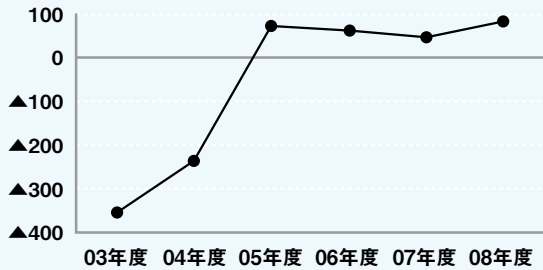


X. 会計報告 (2009年6月30日現在)

1. 目で見る財政の推移

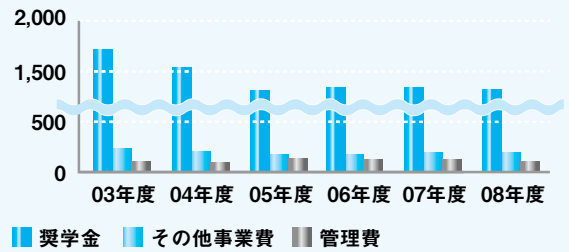
■正味財産の増減

(単位：百万円)



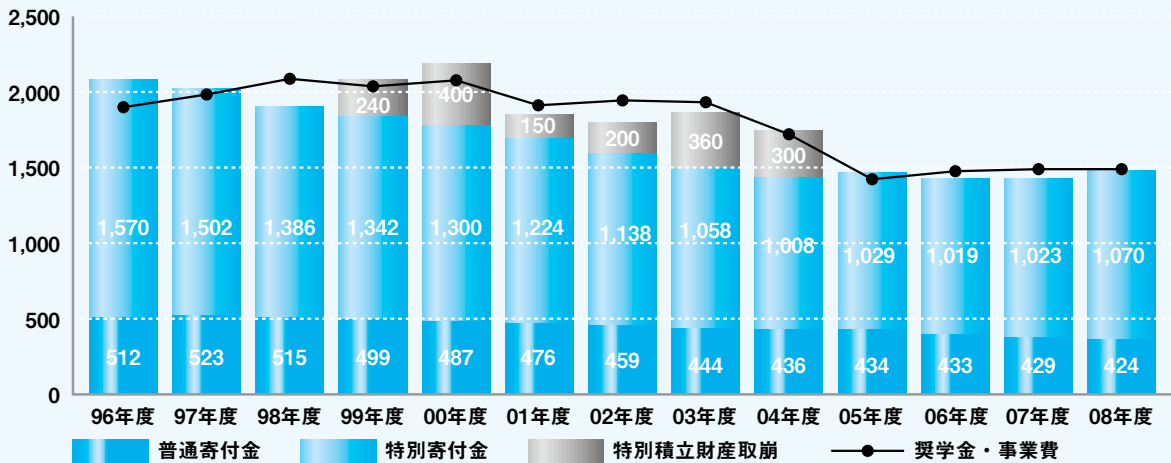
■支出推移

(単位：百万円)



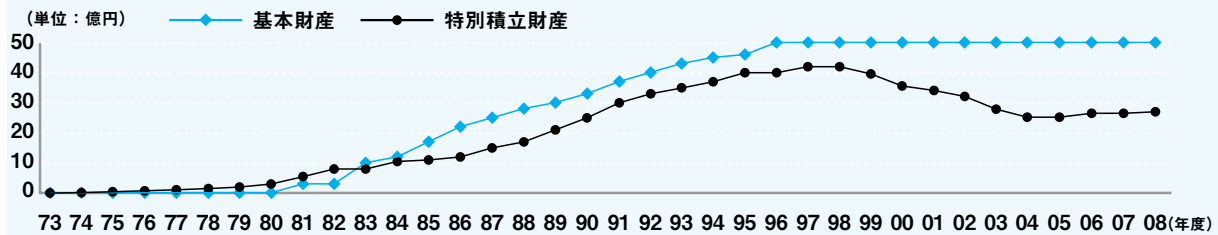
■寄付金と奨学金・事業費の推移 (1996年度～2008年度)

(単位：百万円)



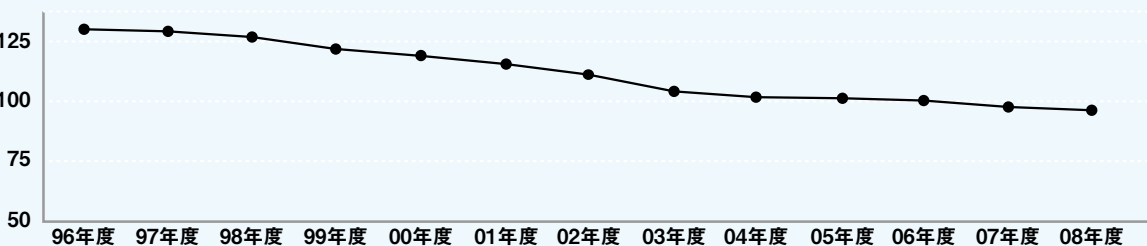
■基本財産・特別積立財産推移

(単位：億円)



■ロータリークラブ会員数推移 (1月1日現在)

(単位：千人)



## 2. 貸借対照表

### 資産の部 (単位：千円)

	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
流動資産	319,365	391,846	299,413	341,615	320,774
預金	319,265	391,309	298,910	341,066	320,479
その他流動資産	100	537	503	549	295
基本財産	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000
特別積立財産	2,550,000	2,550,000	2,700,000	2,700,000	2,803,967
その他固定資産	32,297	31,490	34,383	34,683	38,769
<b>資産合計</b>	<b>7,901,662</b>	<b>7,973,336</b>	<b>8,033,796</b>	<b>8,076,298</b>	<b>8,163,510</b>

### 負債の部 (単位：千円)

	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
流動負債	210	65	717	0	0
固定負債	21,264	20,457	23,350	23,650	27,736
退職給付引当金	21,264	20,457	23,350	23,650	27,736
<b>負債合計</b>	<b>21,474</b>	<b>20,522</b>	<b>24,067</b>	<b>23,650</b>	<b>27,736</b>

### 正味財産の部 (単位：千円)

	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
正味財産合計	7,880,188	7,952,814	8,009,729	8,052,648	8,135,774
(うち基本財産)	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000	5,000,000
(うち特定資産)	2,550,000	2,550,000	2,700,000	2,700,000	2,803,967

(単位：千円)

<b>負債及び正味財産合計</b>	<b>7,901,662</b>	<b>7,973,336</b>	<b>8,033,796</b>	<b>8,076,298</b>	<b>8,163,510</b>
-------------------	------------------	------------------	------------------	------------------	------------------

- (注) 1. 奨学資金特別積立財産は特別積立財産と称する。  
 2. 各年度財務諸表は独立監査人の監査を受け、適正意見を受領しております。

### 3. 正味財産増減計算書

経常収益 (単位：千円)

	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
普通寄付金	436,009	434,462	432,909	428,971	424,424
特別寄付金	1,007,561	1,028,872	1,018,671	1,022,934	1,069,694
(寄付金合計)	1,443,570	1,463,334	1,451,580	1,451,905	1,494,118
受取利息	157,222	125,423	111,116	104,428	95,478
敷金戻り収入		11,033			
移転補償金収入	0	14,280	0	0	0
<b>経常収益計</b>	<b>1,600,792</b>	<b>1,614,070</b>	<b>1,562,696</b>	<b>1,556,333</b>	<b>1,589,596</b>

経常費用 (単位：千円)

	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	2008年度
事業費	1,748,718	1,420,927	1,432,274	1,445,710	1,444,880
(うち奨学金)	1,539,920	1,243,710	1,254,910	1,252,960	1,250,063
管理費	90,894	109,484	73,507	67,704	61,590
敷金支出		11,033			
<b>経常費用計</b>	<b>1,839,612</b>	<b>1,541,444</b>	<b>1,505,781</b>	<b>1,513,414</b>	<b>1,506,470</b>

(単位：千円)

<b>正味財産の増減</b>	<b>△238,821</b>	<b>72,626</b>	<b>56,915</b>	<b>42,919</b>	<b>83,126</b>
----------------	-----------------	---------------	---------------	---------------	---------------

- (注) 1. 奨学資金特別積立財産は特別積立財産と称する。  
2. 各年度財務諸表は独立監査人の監査を受け、適正意見を受領しております。

## より身近な奨学事業の実現にむけて 課題の整理

**奨** 学金制度や留学生支援のあり方は、時代や価値観の変遷とともに変化せねばならないものです。近年、ロータリー米山記念奨学会ではロータリアンや学友、大学担当者を対象としたアンケート調査を継続して実施し、その上で得られた評価・課題を基により身近な奨学事業の実現を目指して参りました。

留学生支援の目的や国費奨学金に並ぶ奨学金額の意義とは何か、優秀でロータリー運動の良き理解者になる若者をどのように募集したらよいのか、新たな奨学金プログラムの設立の是非を含め、民間最大の留学生支援団体としての使命とそのあり方を模索しながらすすめた“米山奨学金制度の見直しと改定の軌跡”をまとめ、“課題”を整理しました。

### 第1期基礎調査で得られたこと

米山奨学事業第1期基礎調査(ロータリアンと大学担当者対象アンケート調査:1999年8月実施)を基に実施されたのが、2002年度制度改編「変わる“よねやま”～新制度」でした。改編のポイントは、「米山奨学事業の目的は、ロータリーの理想とする国際理解・親善を深めるために優秀な留学生を支援し、国際平和の創造と維持に貢献する」であることを再確認するものでした。また、奨学生支援の方針を「救済支援型奨学金ではなく知的貢献型奨学金」であるとしたことは、この改編の大きな特長でありロータリアンの意識改革を促すものでした。同時に、1999学年度から倍率が高い13地区で試行した「指定校・大学推薦制度による奨学生選考」が、情実に左右されない公正な審査方法として、ロータリアンのみならず大学担当者や被推薦者から支持される選考方法であることが確認され、2002学年度からロータリー全地区で施行が決定され、その運用は現在に至っています。

### 第2期基礎調査で得られたこと

第2期基礎調査(ロータリアン・米山学友対象アンケート調査:2003年8月実施)を糸口として実施されたのは、「2006年度制度改編“新生!ロータリー米山奨学事業”」でした。

第1期基礎調査の反省から、より多くのロータリアンからの意見を聴取し、フォーラムやセミナーで具体的な改編素案を提示するなどロータリアンに広く論議してもらい、意見・要望が改編に反映できるよう努めました。得られた結果は、「知的貢献型奨学事業に対する高い支持」と「指定校・大学推薦制度によせられた信頼と期待」を証明するものであり、前回実施の制度改編内容を評価できるものでした。

新たな奨学金プログラムの誕生も実現しました。優秀ながらも自費では来日できない学生を海外で募集・選考し招聘する「現地採用ロータリー米山奨学金」や、「地区奨励ロータリー米山奨学金」の設立は2006年度制度改編の目玉となりました。他に「学部課程奨学金制度」に高専専攻科在籍者に応募資格が与えられ、「クラブ支援奨学金」に上級課程へ進む米山奨学生に応募資格が与えられるなど、広がりのある制度となりました。また、近隣地区の大学を指定することが可能になり、「地区奨励奨学金制度」の導入によって短大、高専、専修学校や留学生研修団体等を指定できるなど、世話クラブの裾野が広がると同時に、地区独自の留学生支援の方針が打ち出せるようになりました。

## “見送られた課題・新たな課題”と“公益法人改革”

「ロータリー米山記念奨学事業」は、日本におけるロータリーの組織力によって運営されています。民間留学生支援団体として誇る歴史と実績は、「特定公益増進法人」としての認可を文部科学省から得るなど社会的な信頼を誇っています。

一方、2008年12月1日に公益法人関連三法が施行されました。公益性ある奨学団体として認定されるためにも、現行制度の改革には慎重な対応が求められます。

公益財団法人の認定に向けて、2006年度制度改編において改革を見送らねばならぬ課題もありました。“日本人支援”や“奨学金の地域別格差”、そして“ロータリー財団と連携した奨学金プログラム”などです。これらは、奨学団体としての“設立趣意書”や“寄付行為(定款にあたるもの)”に触れるため、時期尚早とし継続審議案件として残されています。今後、更に時間をかけて協議し、多くのロータリアンから納得していただける結果を得たいものです。

同時に、現行制度への新たな改革案も寄せられるなど、制度の見直しには終わりはありません。

「前回の制度改編で見送られた課題」と「新制度が抱える課題」を以下に整理しました。

今後も米山奨学事業を取り巻く環境を見極め、財団の定款と言える“寄付行為”やその基礎を成す“設立趣意書”との摺り合わせを行いながら、ロータリアンにとって更に身近な奨学事業の実現に適うよう努めて参ります。皆様のご意見、ご提案をお待ちしております。

### 前回見送られた課題と新たな課題

1. 日本人学生の支援の要望
2. 奨学金額の地域別格差への要望
3. ロータリー財団と連携したプログラムの実現
4. クラブ支援奨学金制度(CY)の運用の公平性と、公益性に対する懸念と廃止案
5. シンプルで分かり易い奨学金制度の実現  
→応募資格(課程・学年・国籍制限)や奨学期間の見直し
6. 地区別奨学生割当数算出の見直し

(\*)各地区に奨学生採用数を割り当てる算定方式

2006年度採用より、地区の有資格者数(対象となる留学生数):個人平均寄付額:寄付総額の比率を1:5:4として、寄付の多い地区に、より多くの奨学生採用数を割り当てる方式とした。

(従来は、有資格者数3:個人平均寄付額7)